

フューチャーフラワー基金第2期 報告会

2010年11月21日、仙台市内にて、フューチャーフラワー基金報告会が開かれました。参加者は25名（内ネパール人学生5名）と多数お集まりいただきました。

1. サンジブ・アリアル代表のあいさつ

報告会は、日本・ネパール文化交流倶楽部代表サンジブ・アリアルのあいさつに始まりました。日本・ネパール文化交流倶楽部設立から、早4年が経とうとしています。サンジブ代表の思いは、設立の原点でもある“Give and Give”，そして、たくさんの方が理解してくださり、フューチャーフラワー基金が第2期へと歩を進めることができたことへの感謝の気持ちにあふれていました。

2. 参加者の自己紹介

初対面にもかかわらず、里親同士ということもあってか、参加者同士はすぐにうち解けることができました。

3. 今回の報告会の目的

今回の報告会の目的は、フューチャーフラワー基金の活動が大きくなると同時に、里親のみなさまと共に、フューチャーフラワー基金の「なぜ？どうやって？いつまで？」という、言わば原点に立ち返ってみることでした。

ネパールで、学校に行けない子どもがいることには、親世代が教育の必要性を理解していないこと、昔の日本にも似た男尊女卑の思想が田舎にはまだ残っていることなど、様々な理由があります。

サンジブ代表は、「昔は、僕が大金持ちになって村の子どもを救おうと思いました。けれどそれでは、限界があることを知りました。それよりも、理解してくれる日本人に協力してもらって、子どもを1日も早く学校に行かせたいと思うようになりました。」と語りました。

「めげずに、無理せずに、楽しんで。」サンジブ代表は、特に“無理せずに”というところを強調しました。フューチャーフラワー基金は1年ごとの更新です。しかし、里親のみなさまのご理解をいただき、支援の継続を願わずにはられません。無理をすることで継続が難しいという事態にならないよう、できる範囲で、楽しむ気持ちを忘れないでいただきたいということでした。そのためのご相談は、サンジブ代表とスタッフがいつでもお受けいたします。

4. 第1部～日本・ネパール文化交流倶楽部、フューチャーフラワー基金のこれまでの経過

年	月	出来事
2007年	1月	日本・ネパール文化交流倶楽部設立
	5月	第1回ネパール交流ツアー
	9月	第2回ネパール交流ツアー
2008年	3月	毎日新聞に掲載される

	4月	第3回ネパール交流ツアー
2009年	1月	フューチャーフラワー基金設立
	3月	第4回・第5回交流ツアー
	4月	フューチャーフラワー基金支援スタート(1組)
	10月	河北新報に掲載される
	11月	フューチャーフラワー基金設立記念イベント開催
2010年	3月	2010年第一期里親報告会
	4月	フューチャーフラワー基金第1期スタート(15組)
	5月	読売新聞に掲載される
	9月	第6回ネパール交流ツアー
	10月	フューチャーフラワー基金第2期スタート(15組)
	11月	2010年第2期里親報告会(読売新聞掲載)

5. 第2部～2010年第2期フューチャーフラワー基金の報告

サンジブ代表は、新たに15名の子どもを里子として決定し、里親カードを配布しました。学校に行けない子どもがたくさんいる中で、15名に決めるのはとても厳しいものがありました。

村にも変化が見られました。村人が、学校に行きたくても行けない子どもの情報を教えてくれるようになりました。子どもを救うために、村人が協力してくれるようになったのです。

ダディン郡のみならず、ネパールには、カースト制度に始まる根深い課題があります。上のカースト階級の人々から下のカースト階級の人々への支配的な階級意識はもちろんのことですが、実は、下のカースト階級の人々が抱えている、被支配的な意識も大きな課題とのこと。個人のモラルや家庭環境なども、元々身分が低い人ほど、改善が難しいそうです。

そして、2010年第2期フューチャーフラワー基金の里親に、カードとレポートが配布されました。里親のみなさまの笑顔がとても印象的でした。

6. 今後の課題と目標

フューチャーフラワー基金の運営については、里親のみなさまとスタッフが集まって方針を固める時期に来ています。今後、里親と里子だけでなく、里親同士、スタッフそれぞれが、互いに“顔の見える支援”を続けていくために、みなさまのご意見をいただき、運営に反映させていきたいと思っております。

7. 質問タイム

最後に、ざっくばらんな質問タイムを設けました。その一部をご紹介します。

Q1： 里子からの手紙が英語で書かれていました。英語は通じるのでしょうか？

A1： 小学校1年生から英語を学習します。ぜひ、里親のみなさまから英語でお返事を書いていただければ、里子の学習意欲の大きな刺激となります。もちろん、日本語からネパール語に訳すことも可能ですので、その際にご相談ください。

Q2： 2010年第1期から里親となりましたが、里子の様子についての報告があればと思います。学校

に行けているのかどうかも心配です。

A2： 里子の様子については、ブログ (<http://japanxnepal.blog83.fc2.com/>) やメーリングリストで順次報告させていただきます。

里親のみなさまにとっての一番の報告は、里子からの手紙だと思います。しかし、手紙を書くということは、子どもたちにとっては、とても緊張する一大事となります。ネパールは郵便事情も悪く、郵便が必ず届くわけではありません。現地に行ったスタッフが、直接、里子から手紙を受け取って日本に持ち帰ることが、里親のみなさまにお届けする一番確実な方法かと思います。手紙が書けない里子には、成長が分かるものを準備するように伝えます。時間はかかりますが、成長の報告がお手元に届くまでお待ちいただければと思います。

学校にはきちんと行っています。現地スタッフの目が行き届いておりますので、ご安心ください。

Q3： 個人的に手紙のやりとりをしてもよろしいでしょうか？

A3： もちろん構いません。ただ、手紙の他に金銭や物を送る場合には、十分な注意をしていただきたいと思います。特定の里子が過度に支援を受けすぎると、他の里子がさみしい思いをしたり、自分の分を欲しがったりします。日本からのちょっとしたプレゼントでも、里子にとっては、大きなプレゼントになってしまうこともあります。純粋で素直な里子たちの気持ちを考慮していただいて手紙の範囲でお願いします。

Q4： 里子がとても幼いのですが、こんなに早く学校に行かせる必要があるのでしょうか？もっと支援を必要としている子どもがいるのではないのでしょうか？

A4： 里子を選ぶ基準は、年齢以外に家庭環境があります。また、選べなかった子どもを、次回また面接できるとは限りません。里子がとても幼いということは、「今、この子どもを選ばなければ、この子どもはこの先、学校に行けない可能性が高い。」と判断されたということです。

Q5： ネパール交流ツアーの経路は？

現在、韓国経由とタイ経由が考えられます。

第6回ネパール交流ツアーは、タイ経由で、バンコクに1泊しました。羽田空港が本格機動すれば、乗り継ぎがスムーズになります。日本を出発したその日のうちにネパールに到着することも可能となる見込みです。

Q6： ネパール交流ツアーは、カトマンドゥやポカラを観光するなど、観光を楽しむことが大きな目的となっている。子どもたちに会うことを目的としたツアーの予定はあるのか。

A6： 里親のみなさまの声が多ければ、今後企画していきます。できれば、村の生活を体験していただきたいと思っています。